

町史編さんだより

第29回 ～「じげの宝」シリーズvol.16～

『長谷部信連の屋敷跡、長楽寺、 鵜の池など史跡や名勝の地、下榎1区』

地域の特徴や活動、行事、祭り、昔話、自慢などを紹介します。



▲昭和60年10月、巖島神社（下榎）
で長谷部信連顕彰式が開かれた



▲大豆の集団転作に取り組む（昭和63年）

さらに地元の文化財を保存・活用しようと、長楽寺の十二神将像を写真撮影し、テレホンカードを作成しました。これらの像は、人々を守り、徳を授ける神といわれています。これにあやかっただけで平成元年から毎年1体ずつ、12年がかりで完了しました。このほか、リングの栽培、釣り堀の運営、また

「日野川の魚類は減少しているが、下榎周辺で釣り上げるアユは身がしまり美味しく自慢の一つ」、「日野町産の白ネギは、黒ぼくの土壌で栽培するので、とても柔らかくおいしい。体の続く限り農業を頑張りたい」、「鳥取県は、星取県と宣伝しているが、鵜の池湖畔は夜になると明かりがなく、星を鑑賞するには最高の場所。自然を大切に、観光と結びつけたい」など、地域づくりへの思いが語られました。（松本利秋Ⅱ政治・行政・教育小委員会）

下榎1区は、日野川左岸に位置し、上流域に根妻（下黒坂）、下流域に下榎2区、安原と続きます。ふもとの集落と日野川の間には水田が広がり、その中をJR伯備線の電車が通過する景観は、鉄道ファンにとっても魅力的です。

集落の西端部には、平安時代（今から約800年前）、本町に配流された武将・長谷部信連の屋敷跡があり、東西85m・南北70mのお堀跡や礎石らしきものが現存。集落内には、信連公の子孫や、家来であったと伝えられる姓の家系もあるといえます。

集落内から上がった標高350mの山腹には長楽寺があり、国の重要文化財の仏像5体のほか十二神将を収蔵庫に安置。本堂の格天井には花鳥風月の絵が描かれています。開基は延暦寺（根雨）と同じ

く長谷部信連で、両寺に位牌があります。同寺からさらに上がり、標高420mの高原には、景観の美しい鵜の池（下榎・下黒坂、周囲2.3km）があります。

農業や文化財を生かしたジゲ起こしを次々と

下榎地区は、昭和50年代に日野町で最初にほ場整備が行われ、1区では、農産物などを生かした地域づくりが盛んに行われてきました。その原動力となったのが岩屋クラブです。昭和61年6月に、自治会で初めてサツキ祭りを開催。ちようどアユの解禁時期で、集落の釣り仲間は、周辺の日野川で釣ったアユを塩焼きにして振る舞い、お酒を酌み交わすうち、区民の交流が深まってきました。これを契機に、まず昭和62年に榎アユ釣り同

好会が発足、さらにジゲ起こしを担う「岩屋クラブ」へと発展しました。

まず、集落で取り組んだのが、ほ場整備を生かした大豆の集団転作です。当時、転作奨励金が減ったため、有利な加算補助金を得ようと地域ぐるみで調整し、昭和63年から実施しました。さまざまな

アジサイの植栽や区民上げて清掃作業など地域の美化活動にも取り組みました。

町特産品白ネギ栽培に取り組み

下榎1区は、昭和35年126人（21戸）が平成27年50人（20戸）に。長年続いた華やかなジゲ起こしも、近年は区民の高齢化と後継者不足により規模が縮小したとのこと。しかし、その精神は現在に受け継がれています。町特産の白ネギは、かつて町内の多くの農家で栽培されていましたが、現在、栽培農家は7戸となりました。そのうち、2戸が下榎1区で取り組んでいます。

読んでみたらんかな～



『たゆたえども沈まず』

原田マハ 著 / 幻冬舎

写実主義から、クロード・モネ、エドガー・ドガといった印象派の画家が次々に現れ始めていた19世紀後半のフランス・パリ。売れない画家のフィンセント・ファン・ゴッホは、放浪の末、パリにいる画商の弟テオの家に転がり込みます。兄の才能を信じ献身的に支え続けるテオ。そんな2人の前に、商才あふれる日本人画商の林忠正が現れ、大きく運命が動き出していきます。

作者の原田さんは、美術館勤務やキュレーターとしての経験や知識を生かし、史実の中にフィクションを上手く盛り込み、ゴッホやテオの心情を描写していきます。どのようにして名作の数々は生み出されたのか、そこに隠されたゴッホの苦悩や思い。まだあなたの知らないゴッホに会えるかもしれません。

アートをテーマにした作品というと、尻込みしてしまう人もいますが、原田さんの美術史モノは面白い作品ばかりです。そのほか、「楽園のカンヴァス」「暗幕のゲルニカ」「ジヴェルニーの食卓」などもオススメ。読んで損はないと思います。

『旅屋おかえり』

原田マハ 著 / 集英社

売れないタレント「おかえり、こと丘えりかは、唯一のレギュラー番組だった「ちょびとちょびっ旅」が打ち切られてしまいます。そんな崖っぷちのおかえりの元に「娘の代わりに旅に出てほしい」との依頼がやってきて…。その後も、さまざまな事情を抱えた依頼人が登場し、おかえりは本格的に旅代理業「旅屋」を始めます。出会って、笑って、泣いて。おかえりが旅屋という仕事にどう向き合い、どう生き方が変わっていくのかも見どころです。

単純に「旅っていいなあ」と思わせてくれます。そして、何より心がホッとさせる優しさに溢れた作品でもあります。ドラマチックな内容だからこそ、読んで楽しく感動もできる、まさに読むサプリメント。疲れた大人にぜひとも読んでほしい1冊です。



この本を 紹介してくれたのは...



企画政策課

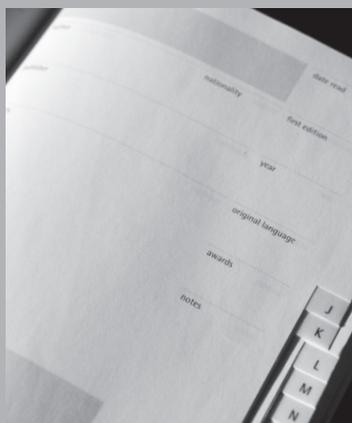
宮本 秀隆 主任

よろしくお願いします♪

職員紹介

あなたも読書を楽しみませんか？

秋の夜長には、やっぱり読書ですよね♪私が普段使っている、本を読むのがさらに楽しくなるアイテムを紹介します。



ブックダイアリー

MY FAVORITE 1

素敵な本との出会いを記録に残しておきたいと思ったことはありませんか？本のタイトルや作者などのデータはもちろんのこと、心に残った言葉や感想を書き留めておくことができます。記録が一冊の本になるので、本を読むのが一層楽しくなるはず。

ブックカバー

書店で本を買うとつけてくれたりしますが、MYブックカバー派の人もいるはず。読書タイムをグレードアップしてくれるアイテムです。

MY FAVORITE 2



しおり

MY FAVORITE 3

本の相棒といえばコレ！読書の必須アイテムですよね。いろんなデザインがあるので、しおりを気にしてみるのもいいかもしれません。